



あやまり堂日記

檳城余録

## 1. 食事

---

まあ、そんなわけで、2014年12月に、2週間ばかり、マレーシアに出かけていたわけです。

基本的には、取るに足らぬ任務があって、遺憾ながら遊び回れたわけではないのですが、多少のことは残すに値するだろうと、今回SIMカードの無いスマホも持ち込んで写真とったので、メモ書き程度に書いて置きます。

### 1) 食事

今話題のエア・アジアが経営するホテルに泊まっておったのですが、もともと朝飯の無いところで、朝はだいたい毎日、同じ屋台で食べておりました。

ちなみに屋台システムは、まず、席を確保します。次に、うまそうな屋台に行って、何か頼みます。席で待ちます。そのうちに、店舗全体のあるじが来るので、飲物を頼みます。屋台の人が、頼んでいた飯を持ってくるので、お金と引き替えます。あるじが飲物を運んでくるので、これもお金とひきかえにします。食べます。

伝統を言えば、このシステムは、もともと単なるコーヒーショップだったところに、飯も食べられるようにと、外部の屋台商人を呼んできた、という仕組みらしい。なので、飯だけ頼んで飲物なし、はあり得ず、飲物だけで飯はなし、は可能。

まー、そんなこんなで、あたくしの朝の定番は、スープ・ヌードル・ウィズ・チキンと、オレンジジュースでした。オレンジジュースは生搾りの実にうまいものです。



体がぼかぼかになります。  
ちゆか、食べ終わるころには汗だくです。



毎朝通っていた屋台のおばちゃん、たいへん感じが良くて、三日目の朝には、「スープ・ヌードル・チキン」と、あたくしの顔見ただけで返事し、五日目くらいには、こちらが何も言わずに指一本出すだけで、スープ・ヌードル・ウィズ・チキンを提供し、最後の辺では、お椀差し出すときに、「アリガト」と言うに至りました。

あー、また行きたくくなりました。  
ちなみにこれだけで、円安の御時世でも、200円しないぐらい。  
ホテルで喰うと、軽く1000円は飛んで行くので、屋台で喰わなきゃ損ですね。

ちなみに昼も夜も、だいたい屋台。  
ワンタンミン・ウィズ・スープが、特にうまい。  
ワンタン麺ですね。

ただ、日本人にとって、マレーシアで一番困難なところは、酒が高い、ところで。  
基本的に国政を握ってるマレー人が、イスラムで酒を飲まないこともあって、酒に、ものすごい税金がかかっている模様。  
あたくしはもっぱら、ハンドレット・プラスという、微炭酸のポカリみたいなやつを飲んでおりました。



なお、言うまでもありませんが、  
屋台ばかりじゃなく、レストランとかで、普通にハンバーガーも食べます。  
でも、ハンバーガーの中味は、チキンです。  
イスラムのハラール対応というやつですね。



## 2. 町相

支給される旅費の中に、タクシー代は計上されないので、もっぱら、乱暴なるバスを利用しておりまして、とはいえ、ペナン島は交通量の多さのため、あちこち一方通行にしてあり、往路復路でバス停の位置がまったく違う場合も多いのです。

で、ある夜ホテルへ帰るべく、とぼとぼと歩いていると、ココナツ問屋に遭遇しました。



山盛りの椰子の実。

男たちが次々とトラックへ投げ込んでるので、いかにも南国な感じ。

「写真とって良えか」

と聞けば、

「おうよ、入って来いよ」

と、招かれるので、ハラハラしつつ行ってみると、

ムキマツチョの兄ちゃんが、実に気さくでした。



### 3. クリスマス

---

12月なので、町はクリスマスでした。

外を歩けば汗だくになる南国でも、クリスマス商戦は盛んで、  
というのも、マレーシアは会計年度が1月～12月らしく、  
まー、そんなわけで12月はかき入れ時。

灼熱の、イスラム国の、マレーシアでも、雪&赤色もこもこ服という、  
「クリスマス定番イメージ」は、有効なのですね。

まー、外は暑い、建物内はクーラー全力なので、  
案外、日本でいう秋冬物の需要があるらしいのがおもしろかったです。  
12月は雨季で、外の気温が低めということもあるようです。  
(外が曇天でも雨天でもクーラー全力=寒い)

ショッピングコートのクリスマス。

何か知りませんが、クリスマス・エクササイズとかいって、  
激しく踊ってる人たちもいました。

毎晩8時くらいになると、集まって、踊ってました。  
あたくしなどが不用意に参加すれば、脱水症状で死ぬ。





以下天使さま。

こういう造形がかわいくない、ちゅーのは、日本以外の定番っすね。

あとアンパンマンもいました。







#### 4. 極楽寺

---

極楽寺は、ペナン島の名物で、1890年頃創建。  
戦前のマレーシア観光記とか、  
ヨーロッパへ渡航する途中日記などには、だいたい登場しています。

で、これがすごいところで。  
寺院の類が、金もうけに執心である、ちゅーのは、古今東西変らんと思いますが、  
ここはさすがに露骨で、  
参道などはもう、土産物店というよりは、普通の商店街が蝟集して、  
肝心の寺院も、古めかしい建築などを覆い隠している。

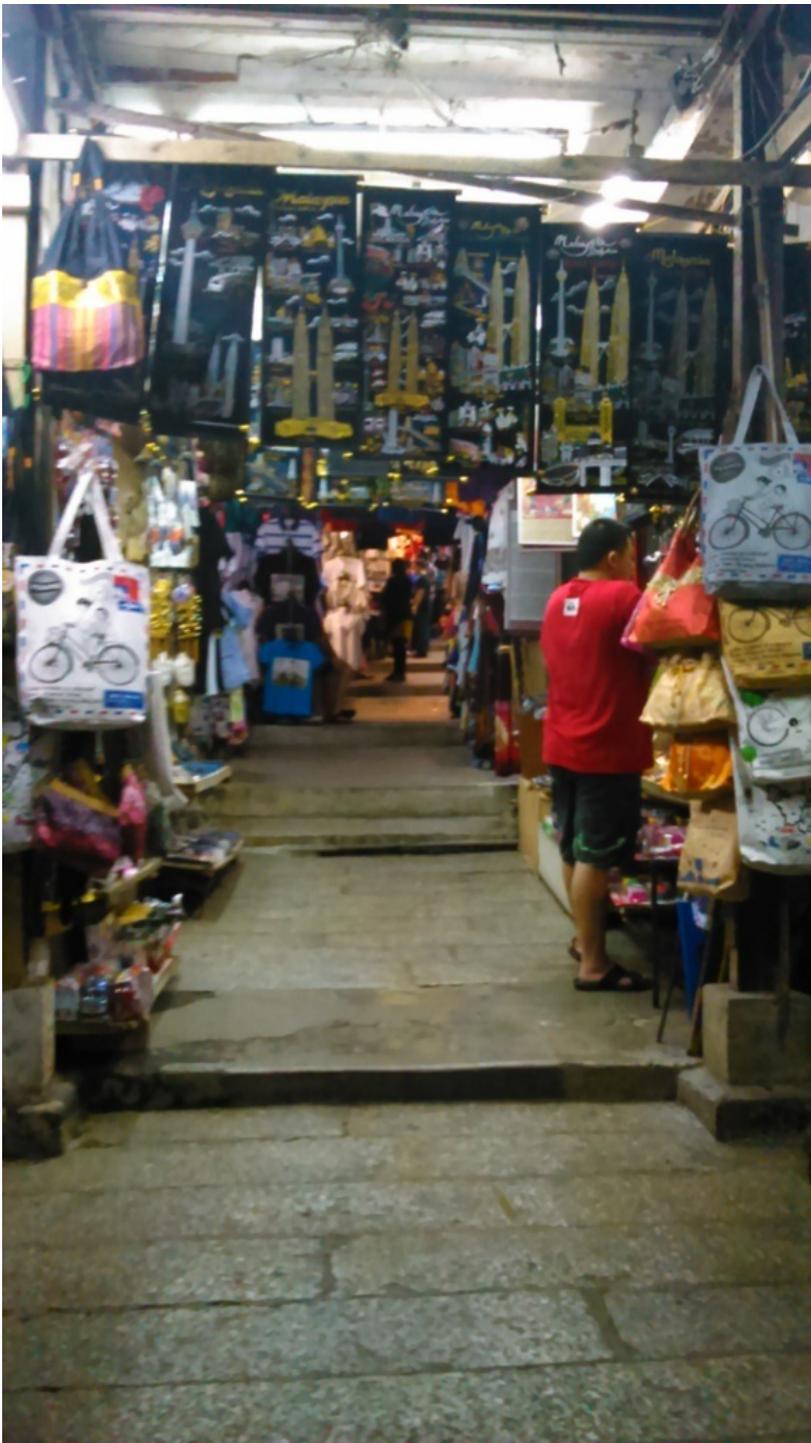
まー、今回の余録は、この寺観光記で終わりますが、  
宗教設備そのものも、そうとうな適当感があってすばらしいのです。

山上、左側に見えるのが、最近の名物の大観音像、  
右側に見えるのが伝統的な名物の、仏塔。  
仏塔の様式は、色んな様式がごったになっているものらしい、  
中に入って、階段をあがれます。

天気が悪かったのが、まことに残念。  
あ、忘れずに書いておきますと、基本的には、きちんとしたお寺です、もちろん。。。







折しも、新年に向けた準備なのか、飾り提灯が散乱しておりました。

良いぞんざい感です。

それでもとくに中華系の人たちが仏様を熱心に拝んでいたのも、

信仰とは何ぞや、とか思ったりします。

あ、ちなみに、イスラム系の人は見ませんでした。

信仰ではなく、文化施設を見学するなら、アッラーもとやかく仰らんはずですが、

まー、見ても仕方ないといったところでしょうか。



## 5. 極楽寺その2

---

そして何がもっともおもしろいかと言えば、  
やはりこの目玉の観音様でしょう。

いや、観音様は至極ふつうです。  
新しい観音像なので、造形自体にも、印象的なものはない。

大きいのは大きい、というより巨大構造物に囲われているので、  
圧倒される。この観音様の四阿は、何やら工事をしていたのですが、  
これひょっとして、外側にエレベータでもつくるつもりじゃね？ と思わせました。

エレベータを設置して、金をとるのです。

まー、そんなことより皆さんあれですよ。  
この観音様に侍る感じで、金色の仁王像がいたのですが、  
これがどう見ても、東大寺仁王像。

まー、良いのですけどね。  
いずれにしても、この金剛力士像が、今回の旅の一番だと思われましたー。











ついでに言うのですが、  
電飾でキラキラする池の上に四阿がありまして、  
そこから眺める池の鯉などまことに風流なのですが、  
そこにぷかぷか浮かぶ鴨は、プラスチックでした。





